

## 九州部会 2019 年度部会研究会

### -----4 月部会研究会-----

【日時】 2019 年 4 月 27 日（土） 13:00～17:00

【場所】 福岡大学 二号館地下会議室

#### 【報告者および報告論題】

コーディネーター：大野哲明氏（駒澤大学）・杉本宏幸（福岡大学）

テーマ：商業理論と流通行動

#### 【趣意書】

個々の流通主体の行動とそれを取り巻くマクロ構造の動態分析は、流通研究において最も重要なテーマの一つであると言って良い。2019 年度第 1 回の研究会は、「商業理論と流通行動」をテーマセッションとし、個々の地域商業者レベルでの「品揃え形成」過程の内実や、卸売業者の行動がもたらす小売市場へのインパクトについて議論する。渡邊・松田報告（第二報告）では、地域商業者の「品揃え形成」研究と経営意識研究の接続をどのように図るかという問題、杉本報告（第三報告）では、卸売業者の商圈規模調整に関わる行動が小売市場にどのように影響するかという問題について、それぞれご報告いただく。またフリー報告（第一報告）では、広告効果における感情をめぐる議論についてご報告いただく。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマセッション  
（報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分）

報告(1)：（フリー報告）「事前感情生起時の広告情報処理に対する関連感情の影響に関する  
予備的考察」

報告者：三井雄一氏（九州産業大学）

コメンテーター：侯 聡聡氏（九州産業大学）

報告(2)：「地域商業者の経営意識に基づく品揃え物の構想について」

報告者：渡邊孝一郎氏（九州産業大学）・松田温郎氏（山口大学）

コメンテーター：大野哲明（駒澤大学）

報告(3)：「複数市場における卸売業者の商圈規模調整」

報告者：杉本宏幸氏（福岡大学）

コメンテーター：出家健治氏（熊本学園大学）

-----8月部会研究会-----

【日時】2019年8月3日(土) 13:00~17:00

【場所】熊本学園大学 14号館 5階 第5会議室(エレベーターを降りて直進)

【報告者および報告論題】

コーディネーター：吉村純一氏(熊本学園大学)

テーマ：流通・マーケティングとまちづくり

【趣意書】

商業や流通研究におけるまちづくりの議論は、商業集積としての商店街をいかに守るのかといった議論から、自治体やコミュニティを単位としたまちづくりをいかに行うのかといったところに拡大展開してきた。いわばまちづくりのマーケティングが課題となりつつあるとあっていいだろう。今回の部会においては、より現代的なまちづくりの課題、まちづくりの方策、さらにはそれらを考える枠組みなどについて活発な議論がなされることを期待している。草野泰宏氏による買い物弱者対策、柳純氏による自治体によるインターネット戦略、林優子氏によるコンパクトシティについての報告をいただきながら、商業・流通研究におけるまちづくり議論の方向性について探ることにしたい。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマセッション  
(報告45分・コメント5分・質疑応答15分)

報告(1)：(フリー報告)「生鮮食料品店へのアクセスと買い物弱者」

報告者：草野泰宏氏(名桜大学)

コメンテーター：出家健治氏(熊本学園大学)

報告(2)：「下関市のシティプロモーションの実態と課題」

報告者：柳純氏(下関市立大学)

コメンテーター：山口夕妃子(佐賀大学)

報告(3)：「新たな局面を迎えたまちづくり政策ーコンパクト化への取組み(仮)」

報告者：林優子氏(名桜大学)

コメンテーター：西島博樹氏(佐賀大学)

-----9月部会研究会-----

【日時】2019年9月28日(土) 13:00~17:00

【場所】九州産業大学 1号館 7階 N702 教室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：笹川洋平(福岡大学)

テーマ：小売業のグローバル化

【趣意書】

わが国では少子化・高齢化、人口減少による国内市場の縮小が予想されるなかで、わが国の企業の多くは国外へその生き残りの途をかける状況へ追い込まれている。小売業もその例外ではなく、大規模小売企業だけでなく中規模小売企業も、「アジアの成長を取り込む」を合い言葉に海外展開している。しかし、国際化を行う道のは決して平坦ではなく、進出後も様々な課題が存在し、リスクが伴う。国際化した小売企業は労働生産性を高め、更なる成長を実現しているケースもあれば、さまざまな課題に直面し、撤退する企業も少なからず存在する。「人材確保・労務管理」、「資金調達・資金繰り」、「法律・会計・行政手続き等の制度」など国際化に際しては取り組むべき課題は多い。加えて小売商業の場合、現地消費者の嗜好への適応する品揃えできる商品調達においても現地でサプライチェーンを確立することは必須の条件であり、クリアすべき最も高いハードルとあってよい。今回の研究会は、小売業の国際的展開と撤退それぞれの局面における事例的・理論的な問題点を取り上げることで、わが国の小売企業の国際競争力の強化につながる今日的な課題を明らかにすることをテーマとして開催する。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)(3)はテーマセッション  
(報告45分・コメント5分・質疑応答15分)

【プログラム】

報告(1)：(フリー報告)「イギリスにおける国際マーケティング展開試論—チャネル論を中心に」

報告者：内田寛樹氏(福岡大学非常勤講師)

コメンテーター：柳純氏(下関市立大学)

報告(2)：「小売企業の海外撤退要因と撤退が及ぼす影響」

報告者：柳純氏(下関市立大学)

コメンテーター：山口夕妃子氏(佐賀大学)

報告(3)：「プラットフォーム小売業の国際展開と課題」

報告者：山口夕妃子氏(佐賀大学)

コメンテーター：西島博樹氏(佐賀大学)

-----1 月部会研究会-----

【日時】：2020 年 1 月 25 日（土）13：00～17：00

【場所】：佐賀大学 芸術地域デザイン学部一号館 A101 教室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：山口 夕妃子氏（佐賀大学）

テーマ：グローバル・マーケティング

【趣意書】

企業が国境を越えて活動することにおける課題は「国際マーケティング」領域における主要な議論のひとつであった。2000 年代に入ると「グローバル」というキーワードで市場や企業戦略が議論されるようになってきた。その背景には、GAFA に代表される IC 技術の発展とともに新しいビジネスモデルの登場や新興国の台頭などがあげられる。

本部会では、「グローバル市場におけるオムニチャネル形成」と「グローバル・ブランドとチャネル問題：自動車メーカーを事例に」というグローバル・マーケティング領域におけるチャネルに焦点をあてた 2 つの報告を通じて、グローバル・マーケティングにおける現代的課題と研究の方向性を明らかにすることをテーマとして開催する。

報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分

【プログラム】

報告(1)：(フリー報告) 小売業の国際化によるロジスティクス構造の変化 (仮)

報告者：魏 鍾振氏（九州産業大学）

コメンテーター：宮崎 卓朗氏（佐賀大学）

報告(2)：「グローバル市場におけるオムニチャネル形成」

報告者：方 慧美氏（九州産業大学）

コメンテーター：三井 雄一氏（西南大学）

報告(3)：「グローバル・ブランドとチャネル問題：自動車メーカーを事例に」

報告者：大石 芳裕氏（明治大学）・原田 将氏（明治大学）

コメンテーター：吉村 純一氏（熊本学園大学）

-----3 月部会研究会-----

【日時】：2020 年 3 月 7 日（土曜日）13：00～17：00

【場所】：中村学園大学 7 号館 5 階 7501 教室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：片山 富弘氏（中村学園大学）、明神 実枝氏（中村学園大学）

テーマ：顧客価値とマーケティング

### 【趣意書】

e-コマース企業による実店舗、ラグジュアリーブランドによるポップアップストアなどに限らず、広く製造業や小売業において、体験などによる顧客価値の創出に関心が向けられている。本研究会では、顧客価値がより重視される近年の傾向と今後の課題について、テーマ「顧客価値とマーケティング」のもと、活発に議論されることを期待している。第1報告ではマーケティングの差異の問題について、第2報告では価値創出の新たな仕組みとしてのポップアップ・ストアの研究について、また、フリーセッションの第3報告では、近年のキャッシュレス化とサブスクリプションの動向について、それぞれご報告いただく。

報告 45分・コメント 5分・質疑応答 15分

### 【プログラム】

報告(1)：「差異からマーケティングを読み解く」

報告者：片山 富弘氏（中村学園大学）

コメンテーター：大田 謙一郎氏（長崎県立大学）

報告(2)：「ポップアップ・ストア研究の現状と課題」

報告者：菊池 一夫氏（明治大学）

コメンテーター：片山 富弘氏（中村学園大学）

報告(3)：（フリー報告）「キャッシュレスとサブスクリプション～新技術受容性や経済圏の視点を踏まえて～」

報告者：太宰 潮氏（福岡大学）

コメンテーター：宮崎 卓朗氏（佐賀大学）